

上海・啓東・蘇州の旅

2012 April 17-21
ファーイースト社工場
淀山湖ヨットクラブ
上海ボートショー
蘇州プロトタイプ計測

ISAF International Measurer
荒川 渡

どこまでも行っても

菜の花が咲き続ける

上海の北部地方の田舎道。

昨年7月に、国際ミラー級ディンギーの木造キットのプロトタイプ計測で上海を訪れました。

その後、そのビルダーは、FRP艇を試作したので、再び同じ目的で上海を訪れる事になりました。 目的は、蘇州の建造所で計測する他に、ファーイースト(FE)社の創立10周年記念行事と上海ボートショー見学でしたが、その他にも、計測依頼人は私がFE社にゴムボートを注文しているのを知り、気を遣ってくれてその艇の検品する為にと、わざわざ50*北の工場に追加の旅程を作ってくれました。 『上海は日本よりも暑い』と聞いていたのに、寒かった。

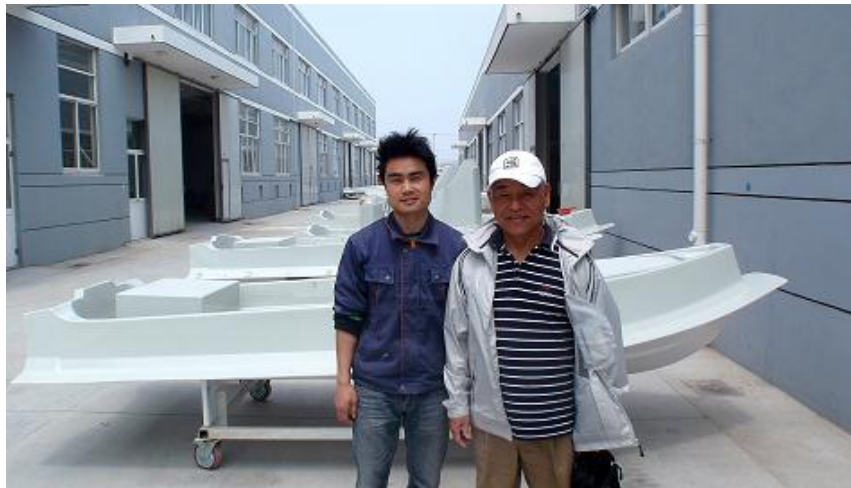
APRIL 18 QIDONG

浦東空港には、ジャンと言う社員が迎えてくれて、車で北に向かうと出来たばかりの海底トンネル(長江隧道)があった。 まだカーナビも対応していない。 長江の対岸の崇明島を通過して啓東市という名の地方都市があり、17日はここで泊る。 ホテルに落ち着いた後、夕食に出かけ街を歩く。 こちらでは、店の棚に食材が並べられてそれを注文するスタイル。 蟹、シャコなど数種類を選び、シャコはカリッと揚げられて美味しかったが、蟹が生で出てきたのには、ビックリした。 気持ちが悪かったが、もったいないと思い全部は食べられなくとも口をつけてしまった。

しかしこれが大いに後悔する事になった。

啓東の北には、もう東シナ海があり、そこに面して新興工業団地がある。 FE社は、上海市内の旧工場の他に、ここでも新工場を操業するようになり、昨年も訪ねた所だった。 が今回はジャンがカーナビを打ち間違えたので、50*も離れた別の地名に向かって走ってしまった。





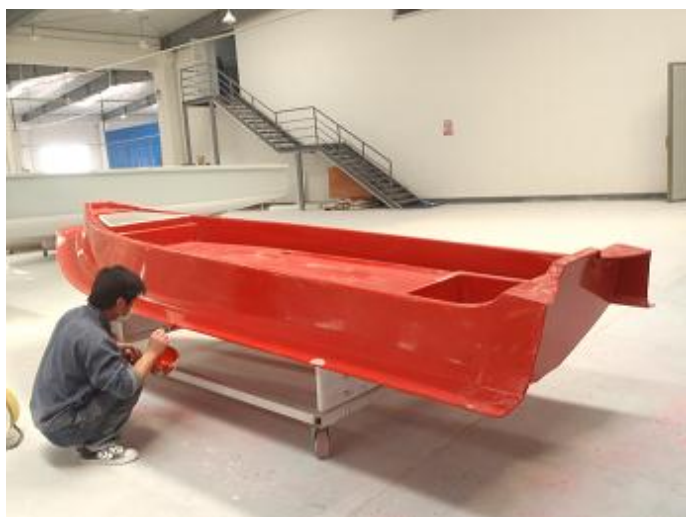
2時間以上も田舎の道を彷徨よったあげく、
なんとかFE社にたどりつきました。でも、普通
では見る事のない上海近郊の姿を(ロバが荷車
を引いていたり、田舎で道路建設ラッシュなど)
垣間見る事が出来てとてもよかった。工場を
案内してくれたのは、品質管理のチーフ、まだ
若い。(写真の左の人)



碧南セーリングクラブの注文した 420、
一緒にのコンテナで日本に運ぶ予定。



待望のRIB480
に面会。4月
26日に出荷
予定と聞いて
いたのに、ま
だ仕上がり
には程遠い
状態だった
ので、ガッ
クリ。。



RIB 480 とは、Rubber Inflatable Boat
の略で長さが4.8mとの意味。

終わったのがちょうど12時、『良かったら食事どう?』と
誘われて社員食堂へ…。この建物の場所は昨年の
7月には荒れ地で駐車場だった。わずか9カ月で建つ
とはさすが中国。この工場では100人が働いており、
OP、420、各種ディンギー、3種のRIB、の他にクルー
ザーも建造しており、特に売れ筋である FAREAST 26
に力を注いでいる。



ジャン

APRIL 18 Ten Years Anniversary of Shanghai Far East !

次の移動は、上海市内の西はずれに“淀山湖”と呼ばれるリゾート地があり、そのヨットクラブでFE社のヨット試乗会とディナー参加が目的です。しかし距離は遠く、上海市の中心を抜けるために交通渋滞がネック。高速道路は猛烈な勢いで建設され、ドライバーのマナーは我先にとの割り込み合戦が果てしなく続き、生存のためにはストレスが溜まりそう。しかも私の腹の調子がおかしい。嫌な予感がして念のために正露丸を飲む。



陸に浮かぶ？
コンクリート製の
航空母艦？
飛行機は実物

長い渋滞の末、4時過ぎにやっとマリーナに到着。FAREAST 26の試乗会を行っている。薄着の私は、湖上はもっと冷えそうで尻込みしていると、FE社のEllenさんがポンツーンまで案内してくれ艇の説明を聞く。このあたりの写真を撮らなかったのが残念。この艇をマッチレースに採用してもらおうべく取り組んでいるとの事。私が『J-80があるじゃない?』と向けると、違いを懸命に説明した。クラブハウスに戻ると、Yammy Eileen がいた。彼女はシンガポールで昨年7月に知り合った。私の息子の友人、英語、中国語、広東語、福建語、日本語ができる。こんな所で再会とは奇遇だった。まもなく、夕食会の料亭に移動するためのバスに乗った。



APRIL 18 樟艾居

料亭“樟艾居”に到着。由緒ある旧家を改装し人気のない林の中にひっそりと建つ。“踏花循芳入探幽處”との案内文は漢語は読めなくても雰囲気はお解りでしょう。ゲストは西洋人ばかり、アジア系ではフィリピンとシンガポールと日本のみ。これがFE社の客筋なのか…？しばらく庭園を散策していると、ミラー建造所のオーナー・其田さんが日本からやっと上海渋滞を抜けて到着し合流した。





フィリピンセーリング協会(PSA)のチームマネージャー **Medy Fidel** さん。訪中の目的は、ミラーディング購入の査察らしい。アフターOPや、成人のビギナーには、ミラークラスが最適と判断し、PSAヨット普及の柱として計画している。オーストラリア製のミラーと其田氏のミラーを比較検討すると、経済面で其田氏がかかなり有利なようだ。明日は上海ポートショーにミラーの試作艇が展示されているので、一緒に行く事になった。PSAは数年前にOPクラスのアセアン選手権を開催した事があり、日本からも参加した。その時のお礼を述べると、「あの時はいろいろあってね。OP アセアン はあれが最初で最後だわ。」と、意味深な事を言っていた。



私は日本OP協会(JODA)の理事でもあるので、代表の立場でもあった。JODAは2013年にOPアジア選手権の開催に向けて準備しており、チャーターOP艇としてFE社と青島のZOU社が候補に挙がっていた。3月理事会で、採用はFE社に決定していたが、**Ellen** にFE社とZOU社の違いを説明してもらおうと、「品質が違うが説明は難しい、ZOUはかつては多くOP生産していたが、今は年間100艇くらいに減っている(FE社は公称1,000艇)。また、当社はOPのありとあらゆる関連製品を自社製造しているが、ZOU社は、単にハルのみ生産し、その他の艀装品は全て他社から流用している。」だった。今日はFE社の社長(Lu Weifeng氏は1970年生まれ、まだ42歳)は姿が見えない。代理の妹さんがファミリーの昔物語から話し始めた。彼女は英語が堪能ではなく、傍らのYammyが通訳を始める。『祖父の時代にサンフランシスコに出稼ぎに行き



ゲストの前で達筆をふるうホスト、立派に主人を務めた。



成功して郷里に帰り、ワイナリー始め、大きな富を得て、壮大な屋敷に住んでいたが、1966年に文化大革命が起こり、批判されて農村に下放された。父の時代に上海に移り、コツコツと働いて(松本さんの言では社長の父は船大工)今日の礎を築いた。』また、私との会話では、1980年代に福岡にOPの国際交流大会があり、彼女は『選手として参加した。』らしい。やっぱり、ファーイーストもOP上がりのファミリーだったのか。

APRIL 19 17th International Boat Show ---- Largest Boat Show in China

昨夜は本当にひどい目に遭った。 初日の夜の生の蟹に当たり、腹痛でせっかくの御馳走がほとんど食べられなかった。 **Medy** さんを ホテルに送り、私達のホテルに着くやいなや、食べたものを全部吐いてしまった。朝の10時に**Medy** さんを 迎えに行き、一緒にボートショーに行く予定なので、ゆっくりと休息する事が出来た。

彼女を上海に派遣したのはPSAの会長・兼彼女の社長 **Mr. Ernesto**氏 それに彼女はS保険会社の社員でもある。 また、PSAの事務局はS保険ビルの8F にある。これで背景はもうお解りでしょう。 彼女はディンギーからクルーザーまで何でも乗りこなすらしい。



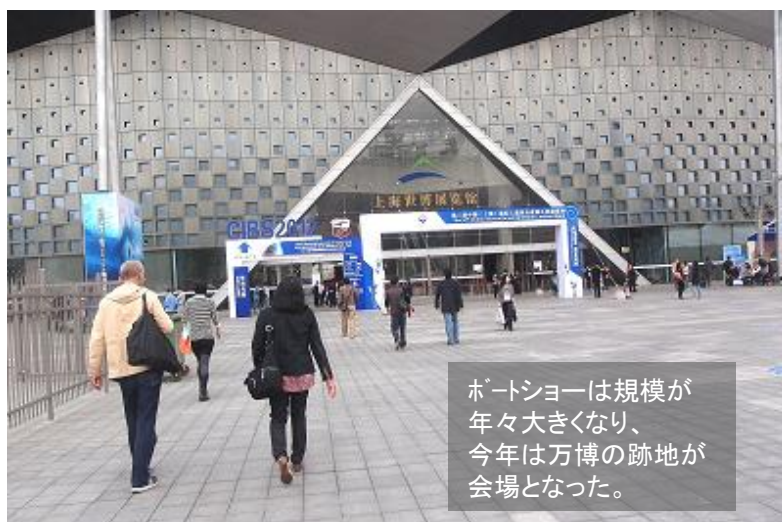
Medy さんの宿泊はマリオットホテル
其田さんと ツーショット



昨夜は立派なビルの歩道に駐車
中国は何て便利な国、と思ったら・・



係り員 が出てきて料金を請求。
30元(390円)エーツ罰金でない！



ボートショーは規模が
年々大きくなり、
今年は万博の跡地が
会場となった。



ミラーディンギー
の展示

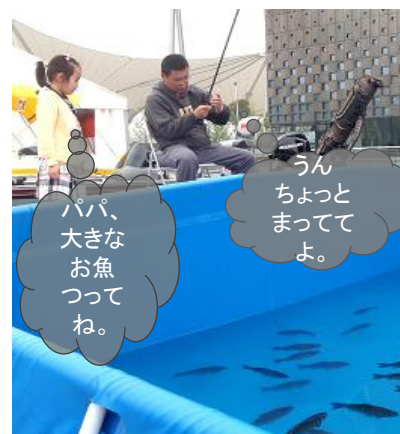
私は臨時のブース係員となって
チラホラと来るお客の受け答え
をしました。



私の横では
カヌーの
実演中

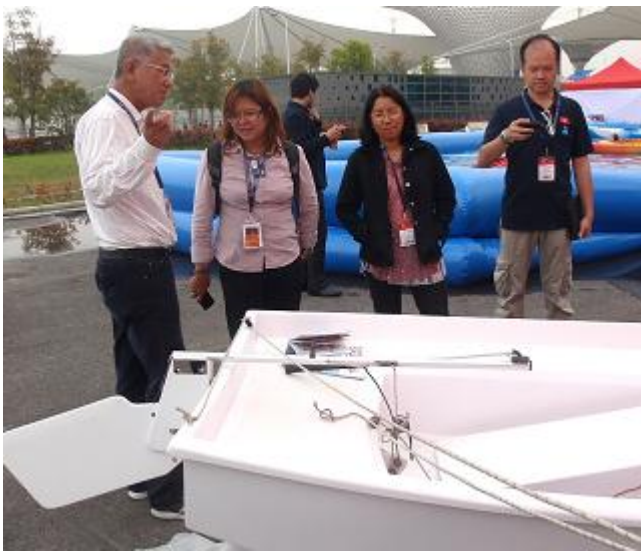


入念なチェックを
しているMedy さん



パパ、
大きな
お魚
つって
ね。

うん
ちょっと
まって
よ。



Yammy が訪ねてくれた。彼女は昨年にインドで開講されたIMセミナーを受講するも、パスできず、講師のBarry氏からもう一度トライするように言われて、今年の夏に葉山で開催の同セミナーを再び受けると言う。その前に日本のレーザーマスターズに出場を予定している現役選手だ。



ミラーのブースの対面では、青島のビルダーがTEN (10m)を展示していた。33feet もの大きさなのにデッキがとても低い。



巨大なパビリオンの内部 世界中から450社が集まってきて 最盛期の日本をしのぐ勢い。



ヨットは少ない、富豪クラスを対象としているよう。



FE社のブースはカウンターがあるのみで非常に簡素、同社の今後の戦略を象徴（成功を収めた企業は独自販路に自信がある。）している。昨夜の晩餐会の主役との記念写真



APRIL 20 蘇州市 INTERNATIONAL MIRROR PROTOTYPE Measurement



朝、蘇州市の宿を出る。

この旅行の最終目的は、FRP 国際 ミラー ディンギーの建造を ISAFが承認するために必要な、計測を行う事です。工場は、松本さんと言う方が FRP クルーズーを 蘇州市で建造しており、其田さんは、その工場内のスペースをお借り

して、試作を進めています。 昨年に松本さんを訪ねた時は、もっと小さな工場でしたが、今のところに移転して、仕事のペースを上げています。ここは、FRPの材料を生産している大きな工場の一画にあり、いわば米の蔵に住む穀象虫のように、この敷地内で艇の材料であるFRPを食べつくしてしまう事は無いわけです。



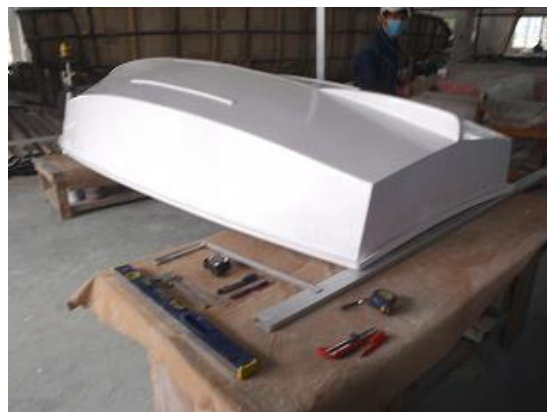
計測作業

ISAFの担当者Henry さんからは、“どのように計測をしているかを写真で撮って欲しい”とのリクエストがありました。

ミラークラスの計測ガイド／マニュアルに従って進みます。ベースラインの割り出しは、マニュアルではテグス系となっていますが レーザーレベルを使います。



ハル横断面は前後方向で4か所を計測しますが、公式テンプレートはなく、チャイン艇なので、(ゼロ)後部トランスム、①センターライン、②チャイン、③ガンネル位置での、ベースラインと交差する横方向水平線との垂直距離を測ります。





沈をした時にはOPの場合はエアバッグで浮力を保ちますが、ミラーの場合は、ハルが2重構造になって中の空気で保持します。ハルの気密検査機器の為に、減圧チューブを入手しようと、蘇州の街に出かけました。

蘇州市は、西に太湖、北に長江からの水を引いて大昔から水運が発達し、栄えてきた。



コンプレッサー屋さん

で部品購入



籠の中には
←
2羽の
ニワトリ
がいた。

コンプレッサーでエアを送り、気密状態が保てば水位が一定のはず、100mmの目盛で20秒間に50mm以内の減少であればOK。



← 水位

重量計測
45.5kg以上



浮力タンクテストは安全規定の中では最も重要な項目。建造者は乗員の生命 safety の確保に対して最善を尽くさねばならない。

あとがき

今回が5回目の中国旅行。巡っていて、どこか懐かしい気がしたり、遠い記憶が蘇ったり、日本とは兄弟のような気がする反面、とんでもない文化の差を感じたりする。このような気分は、西洋や東南アジアやその他の国では感じない。それは幼い頃から、父母を始め大人たちから色々と中国について聞かされた情報の幅と、その後の国情の変貌が、あまりに多過ぎるからなのかもしれないし、古来から交わった歴史の重さ、影響の深さが、日本に係わってきているからでしょう。中国に対する迷い、そんなことを意に介せず、明るくポジティブに今を活動する松本さんや其田さんを見ると、本当に敬服します。これからもよろしく。



浦東空港の搭乗ゲート前にあった
中日 邦交正常化40周年のディスプレイ